

フクシマを忘れない！原発ゼロへ 和歌山 アクション2017 タイムテーブル

10:00~11:00 全体集会

オープニング 紀州五十五万石 バンド演奏

黙祷

実行委員会挨拶 福島よりの発言
松本佳充 (よしみつ) さん 元双葉高校教員

集会アピール

11:10~12:10 アピールパレード

(パレード終了後) ブース企画開始 14:30迄

12:30~14:45 ステージ企画

和太鼓 紀北農芸高校
歌 円香 (まどか)
コント 絵本の読み聞かせ
バンド演奏 ナツオ meets 南風

実行委員会団体 1分間アピール

14:45~ フィナーレ

歌・伴奏・みんなで合唱「故郷」



フクシマを忘れない！原発ゼロへ 和歌山アクション2017実行委員会

名犬タロの物語

元川俣高校教諭

松本佳充

「タロ」とは、私の家で飼っていた犬の名前です。内弁慶で臆病者のタロは誰が来ても一度も吠えたことがありません。しかし、餌や散歩をねだるときには、ご主人様の私に吠えます。番犬としては全然役に立たない犬でした。

子供達は心配事や悩みがある時は、タロと散歩しながら心を癒していました。

そして3月11日大地震が発生しました。タロの犬小屋は蔵の土壁の下敷きになり影も形もありませんでした。生き埋めになったのかなと思いました。しかし、運良く土壁が崩れなかった僅かなスペースに身動きがとれず生き残っていました。そして翌日の午前七時に原発事故による避難命令が出されました。タロを他の近くにリードを繋ぎ直し、ありったけの餌を目の前に置いて、「タロすくに戻るから頑張れよ」といってタロを残して避難しました。：避難直後の朝八時前後に大量の放射線が我が家にも降り注ぎました。当然、餌や他にも降り注ぎそれを飲み食いしたタロは、その時に大量に内部被曝をしてしまいました。

タロです 私もご主人様と一緒に避難してます3・4月に大量被曝しました 原発絶対反対だワン



平成23.4.28~24.12末までに、警戒区域内で犬451匹猫541匹が保護。平成26年1月18日郡山にてタロ死亡。

その後：仕事再開のため：浪江町に残してきた生活物資が必要となり、一時帰宅：。帰宅前日タロはもう死んでいるだろうから餌は必要ないと考えていました。でも子供達は「きつと生きているからお父さん必ず餌持ってきてタロにあげて！」と訴えてきました。翌日浪江の家に着くと何とタロは生きていました。久しぶりの対面に尻尾を振って大喜びでした。一ケ

月間リードに繋がれたままでしたのでリードを外してやりました。「やった!!自由の身になったぞー!」と言わんばかりに喜んでどこかに吹っ飛んでいってしまい、その日は戻ってきませんでした。

二回目の一時帰宅の時でした。タロはどこからともなく現れました。妻と私の二台の乗用車に荷物を積み終え、「タロまた来るから頑張るんだぞ」と餌を与えていました。：その時タロは餌には見向きもせず、私の足下に身をすり寄せてグルグル回りながら絡みついてきました。最初は何をやっているのかわかりませんでした。しかし、タロの仕草を理解した瞬間にタロを連れて帰らないことに対するものすごい罪悪感が私を襲いました。：今度はオレも一緒に連れて帰ってくれ!という意志表示だったので。その頃は放射線に汚染されたタロを避難先で飼うことができるかわからず連れて帰ることができませんでした。「タロこめん!まだ連れて帰れないんだ」と言い聞かせていましたが、先に出発した妻の車を追い始めました。道路が直線になり、次第にスピードアップされた妻の車からどんどん離されていきました。三キロくらい追いかけて来たでしょうか。ルームミラーに写るタロの走る姿がしだいに小さくなり、点になってしまいました。それでも諦めないで追いかけて来るタロを見ながら運転していました。あまりにも必死なのでもう可哀想で見ていられなくなり：胸が締め付けられる思いでした。本能的な欲求だけに従って行動するものと思っていました。人間の愛情をこれほど求めていたことを初めて知りました。：

抜粋です

松本佳充さん（1954年生）プロフィール

<震災前>

3.11 福島県立双葉高校に勤務（原発から3.5 km）
テニス部顧問（テニスコートは原発から2.8 km）
地震発生時はテニスコートで部活指導中。先祖伝来の（300年前）の田畑で兼業として農業を営んでいた

<震災後> 双葉高校福島南高校のサテライト校（H23年4月～7月）。小高工業高校二本松工業高校のサテライト校（8月～翌年3月）。川俣高校（H24年4月～H27年3月に退職）。震災後親戚を転々とし2年半二本松市の妻の実家にお世話になり避難先として生活した。現在は浪江町の居住地区が指定され、浪江町に戻ることができないので郡山市に移住した。母、妻が同居の孫1人の8大家族。

フクシマをわすれない! 原発ゼロへ
和歌山アクション2017

3月12日

和歌山市湊通り丁南1丁目1-3 名城ビル2階
和歌山県地評内

TEL 073-436-3520 FAX 073-436-3554

Mail w-gezera@naxnet.or.jp

http://wgezera310.blog.fc2.com/

「フクシマを忘れない！原発ゼロへ和歌山アクション2017」集会アピール（案）

私たちは、本日、原発事故被災者・避難者の苦しみに心を寄せ、原発再稼働を許さず、原発をなくすため、「フクシマを忘れない！ 原発ゼロへ 和歌山アクション2017」を成功させました。

福島第一原発事故から6年がたちました。福島では、未だに8万6000人の方が避難生活を強いられ、住み慣れた家や故郷を奪われたままです。避難生活の中で亡くなった方は2千人を超し、地震や津波の被害で亡くなった人よりも多くなっています。また、汚染水対策も成功しておらず、地域の生業も打撃をうけるなど、福島は依然として深刻な事態が続いています。

にもかかわらず、安倍政権は被災地の復興・復旧や被災者への救済・損害賠償を疎かにしたまま、原発事故を「終わったこと」とするかのごとく、避難指示解除をすすめ、原発再稼働や海外輸出にむけて動きを強めています。

エネルギー基本計画に基づき、川内原発に続き、伊方原発でも再稼働が行われました。また、原子力規制委員会の新規制基準に「適合」した原発は10基になっています。

2016年2月29日、川内原発に続き、高浜4号機が発送電作業中のトラブルにより緊急停止しました。「適合」した原発でのトラブルは、安全よりも利益を優先させたエネルギー基本計画が招いたもので、新たな安全神話が崩れたことを実証するものです。

こうしたなか、福井地方裁判所や大津地方裁判所では、大飯原発と高浜原発の差し止め判決が出されました。私たちを大いに勇気づける画期的判決です。世論調査でも、原発再稼働に反対の声が58%と賛成の37%を上回っています。また、新潟県知事選挙では脱原発派の知事が勝利しました。脱原発をめざす首長会議は、37都道府県107人まで達するなど、原発ゼロをめざす運動は全国に広がっています。

日本の原発は、2013年9月から2015年8月の川内原発再稼働まで一基も稼働していませんでした。そのことで電力不足になったことはありません。原発なしでもやっていけることを証明するものです。

和歌山県は、電力会社の原発立地計画を反対運動ですべて阻止してきました。私たちは、その運動に確信をもち、使用済み核燃料の中間貯蔵計画についても反対していきます。

みなさん、福島第一原発のような事故を二度と起こしてはなりません。

原発は人類とは共存できません。

被災者を救援するとともに、原発を日本から、また世界からなくし、再生可能エネルギーへの転換を求めて運動を大きく広げていこうではありませんか。

2017年3月12日

「フクシマを忘れない！原発ゼロへ 和歌山アクション2017」

ステージ

音響 出演者控え室

民医連
豚汁・おにぎり
医労連・日赤労組
おでん・署名

和歌山地区労
水餃子
和教組
おでん

市九条の会
綿菓子、ポップコーン

和教組
プラバンやさん

和水労
スーパーボーすくい

子どもたちの未来
子どもの輪投げ、展示

新日本婦人の会県本部
エコかるた、おにぎり、 コーヒー、レイラ化粧品、 手作り小物

故郷 岡野貞一

イントロ C7 Dm Gm F ハイ!

うた F C7 F F sus4 F

うい さか ぎに ろ おい い し か の や ま
い こ さ か こ ろ ざ ま し す を は ち た し は て

Bb F C7 F

こ つ い ぶ つ つ な が の つ な ひ り し や か と の か が ら わ き ん

C F Bb F

ゆ あ め は い か ま ぜ も に め つ ぐ け り て も
あ や ま は は か あ お し ー つ き ー ふ ー り て き ー と

C7 Dm Gm F

わ お す れ が た き る ふ る さ と
お み す ら い は つ き た ぶ よ き ふ る さ と と

エンディング C7 Dm Gm F

本部
本部

本部
写真展
本部
写真展

県評女性部
めはりずし、コーヒー、 紅茶、緑茶

高教組
ビーフシチュー(フランス パン付き)とグラスワイン

梅乃や
お好み焼き、焼きそば

国救・国賠
署名・Tシャツ販売

けいじん舎
熊の牛コロッケ、唐揚 げ

市教組
缶ビール、ジュース、 コーヒー

NPO和歌山 環境ネットワーク	四ヶ郷 九条の	建交労	芋丸	民商
ソーラー クッキング	わなげ	のん太郎唐揚げ、飴湯	焼き芋	たこ焼

